「なな山」活動振り返り

中山 茂樹

私にとっての「なな山」

3 月最後の活動日になな山の 18 回目の総会が開かれた。12 月から会長代行としての総会までの作業は、「私にとって、なな山とは何だろう？」ということ考えることになった。この三カ月を振り返ってみる。

初めに

経過から見ると、一年前に高木会長、相田副会長から宮崎さん、庄子さん、須田さんと私、中山の 4 人の幹事体制に変わった。宮崎会長の初年度であった。その年末に宮崎さんと庄子さんが入院されたことでほぼ 3 か月、私が会長代行になった。私も幹事に名を連ねていたが、会長代行になるほど特別なことをしていた訳ではない。これまでの活動はやりたいことをしてきただけだった。そんな私が、総会の資料づくりを委ねられたことで「なな山の活動と組織のこと」と考えてみることになった。

今年年頭の『なな山便り』は「会員のみなさんの抱負」となった。これを受けて意見交換会を開いた。司会進行をしながら、それまで知ることのなかった他のメンバーのなな山への思いや考えを真剣に聞かせてもらった。このことを契機に私は「会」の活動を理解して、どんな活動にするのかを考える作業を行うことになった。急に会長代行としての意識が芽生えたといえる。

なな山での「活動」とは

最初に総会の資料の話をしたい。恥ずかしいことに、今まできちんと読んだことがなく、資料づくりを任されてこれまでの資料整理から始まった。

私の理解を簡単に述べると以下のようになる。2021 年度活動報告は 1.「安全第一」、2.「活動での連携」の二つだが、これまでのなな山の基本スタンスだと思う。「みんなが無事であって好かった」「連携をとって楽しくやってきた」と結論した。3 番目に「外部のイベント」について触れている。私は「外に開かれたなな山です」と言っていると考えている。具体的な行われたイベント活動に相田さんの手伝いとして参加してきたので素直に受け入れられた。

本題の定例活動については「どんな山にしたいのか」が詳細に書かれている。私は、それを実現するのに月 2 回では必要な活動量とは言えないと考えている。西の山はほどほどに手が入っているが、中の山はかなりの常緑樹に覆われたままで手が入っていない。東の山は近年シノダケの間伐が行われたが、全体のほんの一部である。

里山を管理しているというよりはなな山の自然に対して手を加え、自然との様々な関りを持つことで「楽しく遊び」「様々な学びを得る」というのが、私たちのなな山の活動の立ち位置だとの結論になった。

2022 年度活動方針は、これまでの活動方針を踏襲して出来ている。これまでほぼ毎年、一年間の作業を繰り返していて一見問題がない。しかし、今回の体験からこれまでの一部の人の能力や努力に委ねた活動の進め方ではその継続が難しいと感じた。これは大きな課題ではないだろうか。毎年高齢化が進む。考えるべきは、活動について会員間での情報共有と継承を図ることになった。

なな山の「会」の人とその関係

意見交換会を行った際、「休みがちになると来づらい」「活動の際にとっかかりを見つけにくい」という意見があった。気が付かないうちに疎外や排除の空気が生じているのだろうか。会員間の会話や意見調整がもっと必要なことだと思った。なな山は、会員それぞれのチカラと活動の合計で支えられていると考えている。一人一人が少しずつ分担しながら全員がいろいろな作業に参加する「会」が目標になった。

現在の会員は半数近くが女性である。今回、「幹事」に天野さん、飯田さん、山田さんが加わった。役員の中に「担当」の数を増やして先達に運営に加わってもらった。結局、メンバーのほぼ 1／3 が役員になった。

新たな取り組みも始めた。活動予定を事前に知らせることにした。鎌田さんが「新人ガイド」を提案し、新しい人が活動に入り易くした。

須田さんが「〝担当〟ということはその人が責任を負うことではなくて、先ずは訊いてみようという時に答える人のことです」と説明した。話し合いが拡がると期待したい。多少の軋轢が生まれるかも知れない。でも、多少のことはなな山の大きさが呑み込んでくれる筈だ。すでに作業の中で会話が増えてきている。

桜ヶ丘第一保育園なな山遊び　日にち：3月16日（水）

先日はなな山緑地をお借りしての遠足、ありがとうございました。斜面を使って落ち葉の上をそり滑りしたり、落ち葉プールに飛び込んで全身埋もれたり…。全身を使って山を駆け回り、普段の活動ではなかなか体験できない遊びを経験させていただきました。お弁当の後には大人でも大きいようなぶんぶんゴマをまわしたり、切り枝を使っての自分だけのぶんぶんゴマを作らせていただいたり、最後まで充実した遠足となりました。子ども達もとても楽しかったようで「もう一回上に登って遊びたい！」「またそりで滑りたい」とまだまだ遊びたい様子でした。頂いたぶんぶんゴマを保育園に帰った後早速、年中や年少達に披露したりお土産で渡したりして、帰った後も楽しんでいます。

当日、たくさんの方にご協力いただき、楽しく安全に過ごすことができました。また是非、遊びに行かせてください。本当にありがとうございました。（桜ヶ丘第一保育園　年長担当　遠藤）

落葉プールで遊ぶ

南鶴牧小学校　初春のなな山観察会(3/26)・春のなな山観察会（4/16）

春の息吹が感じられる観察会となりました。
中でもどんぐりから根が出て、芽吹く姿に子どもたちも目は見張っていました。
子どもたちはクヌギとコナラの幹の見分け方、シュンランやヤブレガサ、ウグイズカグラなどの名前も覚えてくれたことと思います。熱心に写真に撮っていました。
落ち葉プールもご準備いただき、そりにのって滑る経験もなかなかできないことです。
いつもご準備いただき、本当に幸せな子どもたちです。自然に親しみ、慈しむ体験ができるこの観察会をたくさんの子に経験させてあげたいと思います。(3 月 26 日　コーディネーター　高橋 久美子)

4 月 16 日(土)、南鶴牧小「春のなな山観察会」。50 名以上の参加になった。当会からは、7 名がサポートした。副校長に続いてM崎さんのあいさつのあと、3 班に分かれて観察スタート。
広場に落ちているクヌギの雄花から話が始まる。「小さいドングリがこんな大きい木になるの？！」と感動の声が上がる。ハナイカダの雄花と雌花を見て、ミョウガ、エビネ、サイハイラン……と西の谷を進む。クリアファイルで作られたカシナガトラップではナラ枯れの話。中の谷では多種の植物を見て廻り、子どもたちからは喜びの声が上がっていた。広場に戻り、クヌギの実生（みしょう）の苗づくり。クヌギのドングリから生えた実生をポッドに移し替える。家に持って帰って育てる子もいれば、なな山に置いて成長を楽しみにする子も。成長を見届けようね。次回は夏。木々の緑で覆われ、野草が生い茂るなな山の空気は格別だよ。また来てね。楽しみに待っています。(庄子)

実生の苗作り

多摩グリーンボランティア森木会　初級講座　日にち：4月23日（土）

グリーンボランティア初級講座がなな山緑地で開催された。受講生のほか、森木会スタッフ、多摩市職員など 30 数名が訪れた。当会からサポートとして、13 名が参加した。

多摩市長他のあいさつや話のあと、受講生が 3 班に分かれてなな山を探索した。当会会員が案内スタッフとして引率し、道々の草木について説明する。咲き始めたエビネ、キンラン、ギンラン、タマノカンアオイなどで立ち止まって説明。植物保護の日常的な活動をアピールできた。なな山の各所には説明員がいて、回ってくる 3 班の受講生にその場の特徴を話した。中の谷でシイタケやナメコの原木栽培、中の山で常緑樹の山の植生、東の山でアズマネザサの管理、西の山で山の植生とナラ枯れの話をした。昼食のあと、「林の構造」をテーマにソデ群落とマント群落の講義が森木会の川添会長からあり、刈払機の危険予知に続けて、中の山に移動してカマによる下草刈り実習、最後にカマの手入れを行った。(庄子)

東の山で説明

和服に魅せられて

私は時間に余裕があるときには着物を着て楽しんでいます。いかり肩の私には着物にはご縁がないとずっと思ってきましたが、団地内のサークル活動で“着付けの講習会があるけど参加してみない”と誘われて初めてみることにしました。

6年もの間、先生から親切に教えて頂き、普段着から留袖（和服のフォーマル）まで着られるようになりました。外出先でも和服姿の人を見かけるとすぐに目がいってしまい、着物と帯、帯締めと帯揚げなど、どれだけ見ていても飽きることがありません。

今年もあっという間に四月も終わりに近づいています、気温が高くなった今では、袷（あわせといい、裏地のある冬用の着物）の時期もそろそろ終わりだなあと私的には思っています。その前に、この新緑の時期にはもってこいの萌黄色（もえぎいろ）　の紬（つむぎ）は着ておこう！！この着物にどの帯を合わせようかな、小物は何にしようかなとあれこれ考えるだけでもあっという間に至福の時間は経っていきます・・・

五月には単衣（ひとえといい、裏地のない春秋用の着物）を着よう！！襦袢（着物用の下着）の半襟は夏用にはまだ早いから少し透け感がある生地で作ってもいいかもしれない、すでに頭の中で生地選びが始まっています。（H.A）

なな山の「宝」

春のなな山の楽しみは、ニオイタチツボスミレの咲き誇った後の斜面に現れる黄金のキンラン。2019年の調査で131株（西の山限定）を確認しました。モニタリング調査エリアでは31株。今年4月24日の活動日に28株をみつけました。一昨年からエリアテープをはずし、周辺と同様に下草刈りをしています。

花は全開せず、半開き状態のままで、花弁は5枚で３裂する唇弁には赤褐色の隆起があります。花言葉は「眠れる才能、華やかな美人」だそう。なるほど。レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている稀少種です。

コナラ、クヌギなどの樹木と菌根菌と共生する植物とされ、周囲環境と土壌環境が生育の絶対条件のようです。たくさんのキンランが咲くなな山は、良質の里山ということでしょうか。（石井）

ななな山植物誌

ヨモギ　キク科　蓬

ヨモギ

キク科の花の特徴は小花がたくさん集まり、それらが一個の花に見えることです。タンポポ（タンポポ属）、ヨメナ（ヨメナ属）、ヨモギ（ヨモギ属）どれも小さい花の集まりですが、属によって花の形はいろいろです。

タンポポは舌状花のみ、ヨメナは舌状花と筒状花、ヨモギは筒状花のみの集まりです。タンポポとヨメナは虫媒花ですから光を受けて上を向き、ポリネーター（虫などの送粉者）に存在をアピールしています。ところが、ヨモギの花は筒状花で下を向いて咲いています。キク科の中ではヨモギだけが風媒花です。ですから目立つ必要はなく、花粉を運んでもらうべく風を待っているのです。この小さな花は中心部が両性花、周囲が雌花という構造で、どちらも結実するとのことです。

カントウタンポポ

カントウヨメナ
「植木図鑑　植木ペディア」より

その昔、昆虫の誕生に伴い、植物は風媒花から虫媒花へ進化したと言われています。その中でもヨモギは虫媒花から再び風媒花へと進化し直したのではないかとも言われています。草餅を味わいながら、ヨモギの来た道に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。（中原）

なな山日記（活動・観察記録）

No. 424　2022年　1月　9日(日)　晴れ　　気温　16℃
参加者　21人
山始めの神事が行われた後、今後のなな山について意見交換が行われた。

● 作業/山始めの神事、落ち枝拾い、刈払い、畑作業、希少植物の養生、意見交換会等。
● 観察/カラタチバナ。

No. 425　2022年　1月23日(日)　曇り　　気温　8℃
参加者　21人
新しい方が参加してくれている。新人ガイドが行われた。

● 作業/クヌギ伐倒、ホダ木作成、シガラ整備、刈払い、ダイコン収穫等。
● 観察/シュンラン。

No. 426　2022年　2月13日(日)　曇後雨　気温　6℃
参加者　18人
雨が降り出した為、１１時で終了。見学者（大沢さん）が入会してくれた。

● 作業/ウメの苗植え、落ち枝拾い、道路整備、畑作業等。
● 観察/コウバイ、ハクバイ、ロウバイ。

No. 427　2022年　2月27日(日)　晴れ　　気温　16℃
参加者　23人
活動内容は事前周知されていた為、効率的に作業ができた。

● 作業/ヤマザクラ伐倒、ホダ木作成、伐倒木処理、希少植物の養生、ニラ植付け等。
● 観察/オオイヌノフグリ、ホトケノザ、カワヅザクラ。

No. 428　2022年　3月13日(日)　曇後晴　気温16℃
参加者　23人
保育園児の遠足の準備をした。

● 作業/クヌギ伐倒、伐倒木の処理、クズ掃き、サトイモ畝作り。
● 観察/ウグイスカズラ、ヒメオドリコソウ。

No. 429　2022年　3月27日(日)　晴れ　　気温　21℃
参加者　24人
なな山緑地の会２０２１年度総会開催され、議案はすべて可決されました。

● 作業/総会、シイタケ・ナメコ菌のコマ打ち等。
● 観察/ニオイタチツボスミレ、ヒゴスミレ、ヤブレガサ。

No.　430　2022年　4月10日(日)　晴れ　気温　28℃
参加者　22人
春のなな山植物観察をした。

● 作業/植物観察、中の山に５つのシガラ置き設置。畑の土作り、丸太の皮むき等。
● 観察/シラユキゲシ、チゴユリ、ヒゴスミレ。

No.　431　2022年　4月24日(日)　晴れ　気温　17℃
参加者　20人
中谷奥を整理したらにモミジイチゴの木を発見。

● 作業/中の谷奥の整備、カシナガトラップ更新、スイカとカボチャの苗植え。
● 観察/キンラン、ササバギンラン、ヤマツツジ、エビネ。

編集後記
2022年度が始まりました。昨年度はいろいろありすぎた大変な年でした。しかし、それを巻頭の中山さんの「振り返り」の通り、「雨降って地固まる」の例えのように見事乗り切って新幹事3名を加えた新たな体制でのスタートです。新会員も参加していい感じで活動が始まっています。さあ、皆で力を合わせてこの美しいなな山を守っていきましょう。k

なな山だより　第55号　2022年　5月　8日発行
発　　行　　なな山緑地の会
発行責任者　　宮﨑　裕
住　　所　　東京都多摩市関戸 2-9-6
ホームページ　　https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/
編集委員　　鎌田文雄　飯田歩